



食生活の変化

- 家計調査結果より -

お正月には、おせち料理を楽しまれた方も多いのではないのでしょうか。

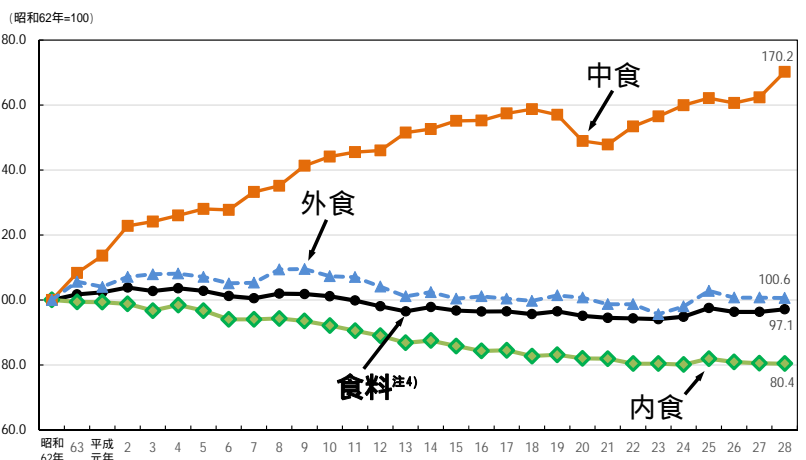
食材を購入しておせち料理を作られたご家庭もあれば、お店でおせちの詰め合わせなどを購入されたご家庭もあると思います。普段の食生活でも、食材そのものか、調理された食品を購入するか、外食にするかを使い分けていると思います。

そこで、今月は家計調査(二人以上の世帯)の結果から、食生活の変化について見てみましょう。

高まる「中食」志向

図 1人当たりの食料の実質金額指数の推移

過去30年間(昭和62年から平成28年まで)について、1人当たり1か月間の食料の購入金額を価格の変化分を除いた指数^{注1)}で見ると、「中食」^{注2)}と呼ばれている、あらかじめ調理された食品の購入が増加傾向にあり、平成28年は昭和62年に比べ70.2%増えています。一方、「内食」^{注3)}と呼ばれる、魚や野菜などの食材そのものの購入は19.6%減少しています。「外食」はほぼ横ばいとなっています。食材を購入して家庭で調理するよりも、あらかじめ調理された食品を利用する人(世帯)が増えたことがわかります(図)。



注1)昭和62年を100とした指数。食料の購入金額を1世帯当たりの人員で除して、CPIで実質化したもの。

注2)中食は「調理食品」をさす。

注3)内食は「穀類」、「魚介類」、「肉類」、「乳卵類」、「野菜・海藻」、「果物」及び「油脂・調味料」の合計をさす。

注4)「食料」には「菓子類」、「飲料」及び「酒類」も含まれる。

表 「調理食品」に占める品目別構成比 (昭和62年、平成28年)

	昭和62年	平成28年	- ポイント差
調理食品	100.0	100.0	-
主食的調理食品	25.2	41.8	16.6
弁当類 ^{注5)}	18.8	27.2	8.4
弁当	-	12.6	-
すし(弁当)	-	10.9	-
おにぎり・その他	-	3.7	-
調理パン	3.6	4.4	0.8
他の主食的調理食品	2.7	10.2	7.5
他の調理食品	74.8	58.2	-16.6
うなぎのかば焼き	6.8	2.2	-4.6
サラダ	2.1	3.8	1.7
コロッケ	2.9	1.7	-1.2
カツレツ	2.2	1.6	-0.6
天ぷら・フライ	11.5	8.9	-2.6
しゅうまい	1.9	0.9	-1.0
ぎょうざ	2.9	1.9	-1.0
やきとり	2.5	1.9	-0.6
ハンバーグ	2.0	1.0	-1.0
冷凍調理食品	3.8	5.9	2.1
そうざい材料セット	7.6	2.7	-4.9
他の調理食品のその他 ^{注6)}	28.6	25.7	-2.9

「主食的調理食品」の割合が増加

次に、昭和62年と平成28年で、1世帯当たりの「調理食品」の品目別購入金額の内訳を構成比で見ると、弁当などの「主食的調理食品」が、平成28年は昭和62年に比べ、16.6ポイント上昇しており、主食となる調理食品の需要が高まっていることがうかがえます。「他の調理食品」全体については16.6ポイント低下していますが、「冷凍調理食品」や「サラダ」の割合は増加しています(表)。

注5)平成12年より、「弁当」、「すし(弁当)」及び「おにぎり・その他」に分割。

注6)平成17年より、「調理食品の缶詰」を「他の調理食品のその他」に統合。